

2 - 1 重点事業評価

事業名 多様なニーズに対応できる情報サービスの充実

(1) 事業の概要

- 対象
子どもから高齢者・研究者まで、すべての年代の県民と本県に関心のある全国の人たち。
- 意図・目的
子どもから子育て世代、高齢者まで、幅広い年代向けの資料を収集するとともに、新潟県に関する郷土資料及び研究者のニーズに耐える専門書の充実を図ることにより、更なる利用の促進を図る。
- 具体的取組の概要
 - ①新潟県に関する郷土資料の収集保存と提供について、一層の充実を図る。網羅的収集により郷土資料の受入冊数を増やすとともに、郷土人物・郷土作家コーナーを拡張するなど提供方法を工夫することで、更なる利用の促進を図る。
 - ②県民の多様かつ高度・専門化する調査研究活動を支援するため、専門書・研究書の整備に努めるとともに、パスファインダーを充実させてホームページで公開するなど調査相談機能の更なる充実を図る。
 - ③暮らしと仕事に役立つ各情報コーナー（くらしガーデン、家庭と子どもの本、第2のオフィス、ユースなど）に加えて、課題解決支援文庫（人生節目の「3活」支援）を開設し、その充実を図るとともに、関連する講演会や講座、各種展示などを開催することにより、県民の生涯学習や課題解決を支援する。

(2) 指標①（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
郷土資料の受入冊数	年間 3,300冊	3,204冊(97%)
（平成26年度実績：2,628冊）		

指標②（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
郷土資料の個人貸出冊数	年間 16,500冊	17,852冊(108%)
（平成26年度実績：16,203冊）		

(3) 事業評価（自己評価）

自己評価	A	貸出冊数は目標を達成したが、受入冊数が目標値にわずかに及ばなかった。
------	---	------------------------------------

- AA 目標が十分に達成された。 A 目標が達成された。
 B 目標がある程度達成された。 C 目標の達成が十分ではない。

項目	項目の解説	状況
必要性	利用者ニーズ又は図書館の使命や方針に照らして、妥当か。	郷土資料の収集・保存と提供は県立図書館の重要な使命のひとつであり、指標設定は妥当であると考えられる。
有効性	期待される成果と実際の成果との関係。実績の向上がみられたか。	受入冊数・貸出冊数ともに前年度実績を大幅に上回ったが、受入冊数は目標値には及ばなかった。貸出冊数は目標値を11%上回る結果となり、利用促進に一定の成果が得られた。
効率性	事業計画に対する内容や量、業務の運び方、進捗管理の妥当性等。	定期的に関係機関へ寄贈依頼するなど郷土資料の収集に力を注ぎ、目標を上回る冊数を集めたが、創立100周年記念事業がある中、収集した資料の受入・整理作業にまで手が回らなかったため、目標達成には今一步至らなかった。

(4) 次年度の展開

方向性・問題点・改善点など

郷土資料の充実は県立図書館の重要な使命であるため、今後も引き続き資料の収集・保存と利用の増加を目指していきたい。次年度は、今年度収集したが整理できなかった資料もあわせて受入し、活用できるよう努めたい。

(5) 図書館協議会意見

郷土資料の受入れには、日常的な出版情報の収集や関係機関への寄贈依頼という地道な取り組みがあることを承知しており、冊数については十分に評価されると思う。新潟県に関するあらゆる分野の資料の収集は、県立図書館の重要な使命であり、県民をはじめ多方面から頼りにされる存在となるためにも、次年度以降も、特に「網羅的な」収集という点で尽力されることを期待する。また、継続的な取り組みが必要であることから、単年度の目標とともに、長期計画の立案も求められる。一方で、郷土資料の個人貸出冊数の成果については大いに評価される。「県立」の図書館という観点からは、一般書の貸出冊数よりもむしろ注目されるべきである。郷土資料コーナーの拡張や書架の刷新という取り組みとともに、古本再生市の寄贈本により貸出可能な郷土資料が増えている状況が利用者に喜ばれているようである。今後とも利用促進の取り組みが継続されることを期待している。

子どもから高齢者までを対象とする情報サービスという点からは、図書館からの情報発信を強化することも必要であると思う。協議会委員からは「例えば、図書館の情報を保育園や幼稚園等の施設に対して発信することにより、保護者や子どもたちが図書館への意識が高まると思う」という意見が出されている。